

通所リハビリのクリスマス会

利用者が1人でも多く参加できるように12月23日～25日の3日間にかけてクリスマス会を企画しました。栄養科から「クリスマス特製のプリン」が振舞われて舌鼓。ジングルベルやbingo大会で盛り上りました。



通所リハ入口にツリーが飾されました



bingo大会に集中しています



栄養科特製のプリン

病棟おせち料理

黒豆	栗きんとん	有頭海老の塩焼	三色酢	羽子板蒲鉾	お煮しめ	伊達巻き	八幡巻き	金目鯛の味噌焼	小豆ご飯	お品書き
----	-------	---------	-----	-------	------	------	------	---------	------	------



おせち料理の意味と由来 おせち料理は本来、お正月だけのものではありませんでした。元旦や五節句などの節日を祝うため、神様にお供えして食べるものを「御節供(おせちく)」と呼んでいたそうです。江戸時代にこの行事が庶民に広まると、一年の節日で一番大切な正月にふるまわれる料理を「おせち料理」と呼ぶようになったそうです。

黒豆

黒く日焼けするほどマメに、勤勉で健康に暮らせるようにとの願いが込められています。

伊達巻き

形が巻物に似ているため、知識が増えるようにとの願いが込められています。

れんこん

穴があいていることから、将来の見通しがきくようにと願います。



海老

長生きの象徴です。えびのように腰が曲がるまで長生きすることを願い、正月飾りやおせち料理に使われます。

栗きんとん

栗は昔から「勝ち栗」と呼ばれる縁起物。きんとんは「金団」と書き、黄金色に輝く財宝にたとえて、豊かな1年を願う料理です。

たたらリハビリテーション病院通信

みんなそろって
#タラッタ



たたら
vol. 60
2026年1月号

2026

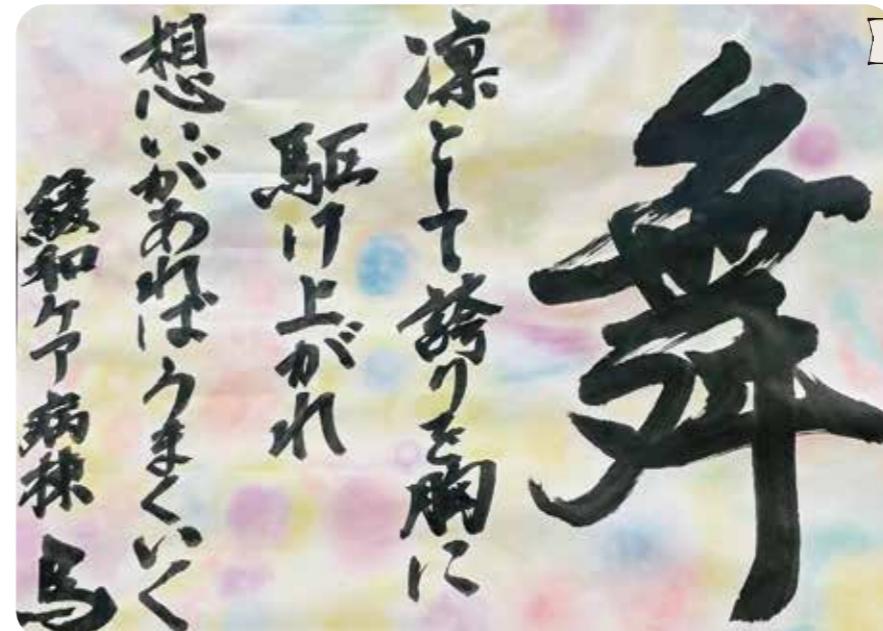
明けましておめでとうございます

馬と舞う

「うま」を逆から読むと「まう(舞う)」となることから、「福が舞い込む」という意味合いが込められています。「左馬(ひだりうま)」は、将棋駒の産地である山形県天童市で生まれ、縁起物として表現されます。



たたらリハビリテーション病院
院長 岩元 太郎



昨年も豪雨災害、大規模火災など、災害が多発しました。地球温暖化による気象の異常が拡大しているように感じます。温暖化対策に真剣に取り組むこと、私たちも、少しづつでも行動をすることが大切だらうと考えます。

ウクライナやガザでの戦争や紛争は終息しているとはいえませんが、世界で、また、日本で、軍事力を増強する動きが進められています。争いごとを、戦争ではなく、対話、外交で解決を求めるこ、平和を求めるこ、に声をあげることが、いっそ大切になっていると思います。

生活の上で深刻なのは、物価高騰の大波です。私たち一人ひとりの生活を直撃していますが、医療機関にも大きな打撃を与えています。医療機関の収入は、国が定める診療報酬によっていますが、診療報酬は引き上げられず、物価高への対応がとれません。医療従事者の収入を増やすことができず、慢性的に人手不足という状況もあります。全国的に、7割の病院が赤字という衝撃的な現状が伝えられるなか、何としてでも地域医療を守っていかなければなりません。

今年は午(うま)年で飛躍の年といわれています。みなさんと一緒に様々な困難を乗り越えられる年にいきたいと思います。



発行元／公益社団法人福岡医療団 たたらリハビリテーション病院広報委員会

〒813-0031 福岡市東区八田1-4-66 TEL:092-691-5508 FAX:092-691-5634

<http://www.tatara-reha.jp> たたらリハビリ



たたらリハビリテーション病院は、日本医療機能評価機構認定病院です。

第5回 HPHフェスティバル 開催

12月6日、当院では5回目となるHPHフェスティバルを開催し、職員や地域の方など66名が参加しました。

HPH(健康増進活動拠点病院)とは、ヘルスプロモーションを実践するためにWHO(世界保健機関)が1988年に開始した国際的な病院とヘルスサービスのネットワークです。HPHは、患者さんの治療や看護だけでなく、患者さんと地域住民の皆さん、病院で働く職員の健康づくりも重視して取り組むことが特徴となっています。

特別講義

「SDH(健康の社会的決定要因)を学ぶ」

千鳥橋病院の有馬泰治先生による特別講義では、ホームレス支援の歩みを通じ、貧困や社会的背景が健康に与える影響(SDH)について深く学びました。参加者からは「単に病気を見るのではなく、その人の背景や歴史を知り、寄り添うことの重要性を再認識した」といった感想が多く寄せられました。医療・介護に従事する者として、多角的な視点を持って患者様や利用者様と関わることの大切さを改めて学ぶ貴重な機会となりました。



SDHの講義をする
千鳥橋病院の有馬泰治医師

演題発表

多職種の実践と知恵を共有

演題発表(*)では、ノーリフト、口腔ケア、グリーフケア、職員の健康、薬剤モニター、友の会の取り組みなど、各部署が日頃取り組んでいる多岐にわたるテーマが報告されました。忙しい業務の合間にまとめられた発表は非常に質が高く、「他部署の活動を知ることで良い刺激になった」「自身の業務や健康管理にも役立つ知識が得られた」と好評でした。また、発表者の努力を労い、互いに高め合えるような講評のあり方についても、今後の改善に向けた前向きな意見が寄せられました。

- * 1. 「体重100kg近くあった男が26kgの減量に成功した件」(6階病棟)
- 2. 「よりよいグリーフケアを目指して」(7階病棟)
- 3. 「共同組織と共に地域活動」(総務課)
～チェックササイズ～(リハビリ科)
- 4. 「副作用モニーの取り組みについて」(薬剤科)
- 5. 「お口の健康とは??」(たたら歯科)
- 6. 「ノーリフトケアチーム活動報告」(ノーリフトチーム)

つながりを実感した一日

今回のHPHフェスティバルは、WEBを活用したハイブリッド開催により、多くの職員が参加しやすい環境となりました。和やかな雰囲気の中、リハビリスタッフによる「たたら体操」でリフレッシュする場面もあり、当院らしい温かみのあるイベントとなりました。運営スタッフへの感謝とともに、「地域活動についてもっと詳しく聞きたい」「ポスターセッションなどの新企画も期待したい」といった前向きな提案を次年度に活かしていきたいと思います。



会場とオンラインを結んで参加しあいました



開会挨拶をする岩元HPH委員長

6年ぶりの まちかど健康チェック

11月28日、当院横の商業施設・アピアリ八田内にあるサニーハーバー店前でおおぞら健康チェックを実施しました。血圧・体脂肪・骨密度・血管年齢・足指力・お肌チェックを用意し、買い物に行き交う人に呼びかけをして受診して頂きました。中には、散歩に来ていた患者さんも飛び入りで参加する光景も見られました。



散歩中の患者さんも飛び入り参加



人気の血管年齢測定



足指力測定中です

八田スキップで 講義と体操を実施



12月17日、八田公民館で「よかトレ」を実践している“八田スキップ”に、リハビリテーション技術部から3名(理学療法士:1名/言語聴覚士:2名)が講師として参加し、「お口の健康について」「ロコモについて」というテーマで講義と体操を行いました。

地域から11名の方が参加され、皆さん興味深く資料をみながら講義を聴いて頂き、実際に体操やラダーを使用した運動と一緒に進行する場面では熱心に取り組んで下さる姿が印象的でした。

講義後には飲み込みや運動のリハビリについての質問も出されたり、終了時の挨拶の際には「来年も是非お願いします」と嬉しい言葉もかけて頂きました。地域の皆さんと交流をもちながら、たたらリハビリテーション病院のことを知って頂ける良い機会になりました。